

特別委員会

改選後、「議員定数調査特別委員会」、「まちなか、地域再生調査特別委員会」、「安全、安心まちづくり調査特別委員会」、「農業活性化調査特別委員会」、「大都市制度調査特別委員会」の5つの特別委員会が設置され、私は「まちなか、地域再生調査特別委員会」に所属となりました。この特別委員会の付議事項は、「まちなか活性化、新たな都市交通、産業・雇用創出にかかわる調査、研究」で、まさに中央区における課題に直結したものでもあります。具体的な動きは9月定例会以降となりますが、随時報告していきたいと思いません。

行政視察

5月31日から6月1日の2日間、所属する会派「民主にいがた」のメンバーで、東日本大震災により被災した、仙台市の状況について視察を実施しました。

高速道路を下り、まちなかを走行している分には、ところどころに地震の爪痕が見られるものの、すでに普通の生活に戻っている感じでしたが、海岸に向け車を走らせると様相は一変。あまりの惨状に言葉もありませんでした。



被害は海岸部だけにとどまらず、内陸部でも地滑りにより、多くの方が被災されています。



聞き取り調査についてはボランティアセンターに伺い、現状や今後の課題などについてお話をお聞きし、自分には今何ができるのか、何をすれば良いのか考えるきっかけになりました。また、仙台市議会事務局調査課の方からは震災当日の生々しい映像を見せていただき、現状についてお聞きしたほか、新潟市の職員の方々がいち早く現地に入り、救援活動をされたことに対し、感謝の言葉もいただきました。

同じ政令市として、少しでも早く復興できるよう、この新潟市からできることをやり続けなければならないと思います。

あとがき

初めて発行する議会レポートですので、「読みにくい」、「解りづらい。」など、いろいろな意見があらうかと思えます。私自身、この議会レポートの発行を通じて、皆さまと市政に対する意見や思いのキャッチボールをしていきたいと考えております。ご意見、ご感想などありましたら、遠慮なく下記連絡先までご一報ください。

また、日々の活動に関してはブログを開設しておりますので、そちらをご覧ください。URLは、

http://blog.goo.ne.jp/tsutomu-y_216

です。こちらへのコメントもお待ちしております。

なお、9月定例会後は会派の議会レポートを発行予定です。合わせてご覧いただきたく願います。

新潟市議会 民主にいがた

2011年夏 第1号



山際つとむ 議会レポート



今年も見事に咲いた鳥屋野潟湖畔のサクラ

はじめに

3月11日に発生した東日本大震災により、東北地方の太平洋岸を中心として、多くの被害が発生しました。被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方々に対しまして、謹んでお悔やみ申し上げます。

また、今なお避難所において生活されている方たちが、一刻も早く以前の生活に戻ることを願ってやみません。

そんな中、4月10日に実施された統一地方選挙において、中央区から初挑戦し、皆さまから叱咤激励の言葉を頂いた結果、新潟市議会へ足を踏み入れること

ができました。

すでに議員となってから3か月がたち、5月臨時会、6月定例会と、何もかも初めての経験で慌ただしい日々を送ってまいりましたが、開かれた市政を目指し、皆さまに、より新潟市議会の中を知っていただけるよう、議会レポートを発行することといたしました。

まだまだ勉強不足の身ではありますが、「初心忘れるべからず。」をモットーに、いつまでもフレッシュな気持ちで市政に臨んでまいります。

私のキャッチフレーズであります、「支えあい、助け合い、住みよい新潟市へ！」の実現のため、精一杯頑張っけてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

発行／民主にいがた 山際 務 (この議会レポートの発行には政務調査費を使用しています。)

市議会会派控室／〒950-8550 新潟市中央区学校町通1番町602-1

TEL 025-226-3476

山際務事務所／〒950-0941 新潟市中央区女池6丁目2番12号207

TEL 025-285-2106 FAX 025-285-2026

E-mail: tsutomu-y@heart.ocn.ne.jp

会派結成

改選前までは民主党公認と無所属議員により「改革ネット」の名称でしたが、この度、現職3名、新人3名のすべてが民主党公認により、「民主にいがた」とし会派を結成しました。

大会派の分裂により少数会派が増えましたが、それでも8会派中5番目の規模であり、存在感を発揮するため、6人で力を合わせて頑張ります。

5月臨時会

5月臨時会が5月18日から20日の日程で開催されました。

昨年度の2月議会で制定された議会基本条例に基づき、正副議長選はその経過を明らかにするため、所信表明会が実施され、藤田隆氏（新市民クラブ）、金子益夫氏（新潟クラブ）、渡辺有子氏（共産党市議団）が立候補され、藤田隆氏が選出されました。副議長選は、青木学氏（市民連合）、明戸和枝氏（日本共産党新潟市議会議員団）、山田洋子氏（市民クラブ）が立候補され青木学氏が選出されました。

その他、議会運営委員会委員長、監査委員の選出については、正副議長選の結果を受けてか、素直に進まず、決定まで6時間半にも及びました。議会基本条例の具体化をより進める必要があると思います。

なお、各常任委員会の人事も決定し、私は環境建設常任委員会に所属することとなりました。これまでの職歴を生かし、前向きに取り組んでいきます。

6月定例会

6月定例会が6月9日から28日の日程で開催されました。主な議案のうち、一般会計補正予算では東日本大震災関連を含め4億8,160万円を追加し、総額3,603億9,760万円とし、一般議案については、食育・花育センターの開館予定日を10月に変更とすることのほか、「新潟市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例」の一部改正により、ごみ集積場からの持ち去り行為を禁止し、持ち去り者には「禁止命令」を発することが可能となり、命令に違反した者に対し罰則（20万円以下の罰金）が科せられることなど、17議案を審議し、原案通り可決しました。

一般質問

6月定例会において、初めての一般質問に立ちました。今回は24人中、24番目と新人ながら大トリを務めることとなり、緊張しながらでしたが無事終えることができました。主な質問項目と答弁は以下のとおりです。



<市所有大規模跡地の活用について>

問 万代小学校跡地について、一部を売却、一部を市の施設として活用するとの話であるが、旧中央卸売市場など、市所有大規模跡地について原則売却の方針に変わりはないか。また、3月11日に発生した東日本大震災により地域防災計画の見直しや、避難場所の確保が言われているが、大規模跡地について、緑地帯や公園化を図り、災害に強いまちづくりを目指す必要があると考えるがいかがか。

答 厳しい財政状況を踏まえ、大規模跡地は原則売却により財源確保に努める方針に変わりはない。但し、この度の東日本大震災では想定を超える津波により多くの方が被災され、いざという時の避難場所や、まちづくりにおける防災機能の重要性を強く認識する結果となったことから、地域の実情を踏まえ、防災面から見た緑地帯や公園整備の在り方について研究を進めていきたい。

<鳥屋野潟湖畔のサクラについて>

問 鳥屋野潟湖畔の市管理のサクラ約440本は老木となり、てんぐ巣病や心材腐朽が見られ寿命が近づいている。新潟市の一大観光資源でもあるこのサクラを守っていく必要があると考えるが、現状の認識は。また、鳥屋野潟公園確定後の治水計画により伐採の可能性もあるが、後継樹育成など今後の対応をどう考えるか。

答 市内におけるサクラの名所の一つとして多くの市民に親しまれていることから、大切に

保存するとともに、再生を図る必要があると認識している。なお、治水計画の対応については、樹木の大きさや樹齢から現在の樹木の移植は困難と考えられるため、その子孫を育て植栽するなど、サクラを再生させるよう、新潟県とともに取り組んで行く。

<新潟市の街路樹について>

問 新潟市の街路樹について、健全育成がなされていない樹木も多々見られるとともに、財政難により管理費の低迷が続く、除草が追いつかず雑草が繁茂している期間が長く、樹形、生態を無視した剪定が行われており、美しい街並みの形成が阻害されている。

仙台市は大震災で被災したものの、すでにまちなかに活気が戻りつつあると感じるが、「杜の都」と呼ばれ、緑の豊かさ、またそれらを巧みに取り入れたまちづくりにあるかと思うが、新潟市においてもまちづくりの核ともなりうる「緑」「街路樹」の質の向上に向けた取り組みが必要であると考えられるがいかがか。

答 剪定については造園業者に委託していますが、樹種や場所によって剪定回数が異なり、街路樹の特性に合った剪定が行えず質のばらつきがあります。そのため、景観形成や緑陰効果としての街路樹本来の役割が十分に果たせていない箇所も見受けられることから、維持管理を含め計画段階から市民に参加していただくなど、街路樹の質の向上に向け取り組んで行く。

<小中学校の体育施設について>

問 小中学校の体育施設について、現在、ほとんどの学校にプールが設置されており、建設費、維持管理費と多額の費用が掛かるが、授業としての利用期間は6月中旬から7月下旬と短いことから、現状はどのような目的で何を目指しているのか。水泳授業の費用対効果と今後のあり方について伺う。また、費用対効果の観点からすると、飛砂防止、ヒートアイランド現象の緩和、芝の成長を見守ることによる観察力の向上など、多くの効果が期待できる「校庭芝生化」をさらに推進する必要があると考えるがいかがか。

答 水泳は、他の種目では身に付けることができない筋力や運動感覚を養うための重要な運動です。特に自校プールであることにより、短時間の指導を繰り返し実施することで泳力を付け、さらに子どもの体格に適した水深で安全に授業を実施できる利点もありますが、使用頻度による費用対効果の面な

ど、課題があると認識しており、授業効率、安全面も含めて水泳授業のあり方を研究していきます。校庭の芝生化については、子どもの運動性を向上させ、健やかな成長に資するものであり、昨年度、鏡淵小学校で実施した。一定の効果の報告も受けており、今年度も2校芝生化を行う予定で、普及に向けた検証を進めながら優先度を含む今後の考え方をまとめた整備方針を策定していく予定としている。



<ISO14001 環境マネジメントシステムについて>

問 新潟市において平成18年度に認証取得したISO14001環境マネジメントシステムについて、原発事故の影響により電力使用量の削減は必須であることから、行政として市民の皆さんとともに節電を行うためにも環境マネジメントシステムの取り組みについての理解、PRを図っていくことが重要であると思うがいかがか。また、目的・目標について、「紙、ゴミ、電気」など、いずれ頭打ちとなることから、環境に負荷を与えるものの改善に対する目標だけでなく、例えば、市民一人当たりの公園面積の拡大や校庭芝生化の実施面積など、環境保全や環境改善に貢献できる目的目標を取り入れることが必要であると思うがいかがか。

答 市役所が率先して環境負荷の低減を図り、その姿勢を市民の皆さまにお示しする必要性からISO14001規格に基づく取り組みを続け、PRしていく必要があると認識しているが、認証機関の認証継続については、他都市の状況や東日本大震災の発生により、社会全体で節電に取り組んで行くことが求められている情勢などを総合的に勘案し検討を進める。目的・目標については、仮称「新潟スマートエネルギー推進計画」など、市民の皆さまとともに実施していく新たな環境施策について積極的に目標を設定し、達成に向けて取り組んで行く。